

りんごポット養成フェザー苗+かん水技術で早期成園化！

【1 成果の概要】

- (1) ポット養成フェザー苗の育成1年目にかん水することで、無かん水と比較し樹体生育が向上し、フェザー数も増加します(表1、図1)。
- (2) 定植後の花芽着生数および初期収量も、かん水区(定植後もかん水継続)が無かん水区より優れます(表2)。
- (3) ポットの口径は20cmでも30cmと同等の生育となるため(表2)、小さいポットの使用により植栽や運搬の際の軽量化が図られます。
- (4) 育成1年目にポット(口径30cm)を埋めず、地面に置いてかん水する方法(以下、地置き育成)でも同等の生育となり(表2)、苗の埋設作業が削減できます。

表1 耕種概要

- ・供試樹：ふじ(宮美ふじ) / JM7 (1年生苗)
- ・栽培方法
 - H28.4 ポット苗を作成し苗圃に埋設
ビーエー液剤処理(50倍、計7回処理)
※ポット：グンゼJマスター(K-30:口径30cm, K-20:口径20cm)を使用
※培土：水稲用培土「まみす」を使用
 - H29.4 ポット苗を本圃に定植(樹間距離1.5m)
※ポットに切れ込みを入れて植栽
- ・かん水方法
植栽時～9月にかけて、日射量に応じたかん水(設定条件：5分かん水・最短2時間停止。1樹当たり晴天時2L/日、曇天時1L/日を目安)を実施

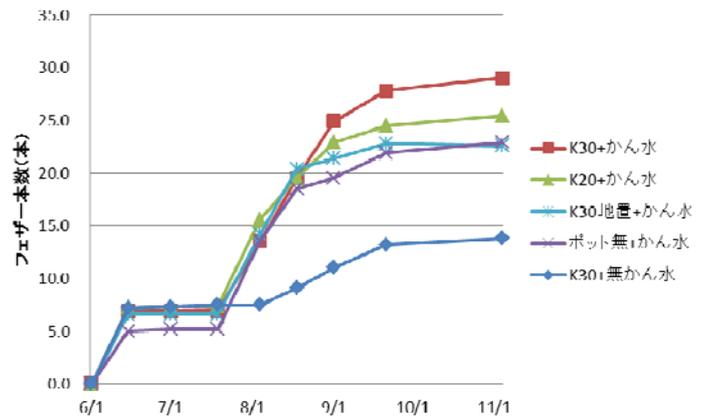


表2 定植2年目の樹体生育および果実収量 (H30)

試験区※1	樹高 (m)	樹幅 (m)	樹容積※2 (m ³)	幹周 (cm)	花芽数/全頂芽数※3 (個)	収量 (kg/樹)	換算収量※4 (kg/10a)
かん水区	K-30	3.0	6.0	11.8	83.6/96.2	6.2	1,035
	K-20	3.1	5.0	11.6	76.2/95.8	6.4	1,069
	K-30 地置き (定植後埋設)	3.2	7.1	12.9	56.8/77.0	6.6	1,102
	ポット無し	2.8	3.9	10.7	40.0/74.6	3.0	501
無かん水区	K-30	3.1	3.6	10.5	23.2/44.8	2.1	351

※1：各区5樹の平均値(本圃定植：H29.4.24、樹体調査：H30.11.12) ※2：樹容積： $2/3 \times \pi \times (\text{樹幅}/2)^2 \times \text{樹高}$
使用ポット グンゼJマスター (K-30:口径30cm, K-20:口径20cm)

※3：花芽数調査はH30.5.11に実施 ※4：4m×1.5m植え、167本/10aとして計算

【2 留意事項】

- (1) かん水はソーラー式自動かん水装置(ソーラーパルサーE、プティオ社)および点滴かん水チューブ(ユニラムRC、ネタフィルム社)を用いました(装置一式参考価格：30万円)。
- (2) ポットを使用せず地植えすると、定植後に植え傷みの影響がみられ、ポット苗と比較し、初期収量が劣ります(表2)。
- (3) 地置き育成する場合は、干ばつ等で乾燥しないよう、pF値に留意(概ねpF1.8～2.0を維持)してかん水を行います。

※本研究は、「革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)」に基づいて実施されました。

担当研究室 技術部 果樹研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1

TEL. 0197-68-4419 FAX. 0197-71-1083